

インターバンクの声（2016 年 1 月 5 日）

新年初日のアジア市場では、中国の製造業景況指数が市場予想値を下回ったことで中国株が急落、寄り付きから下げていた日経平均もさらに下げ幅を拡大した。東京市場では仲値の発表があった頃までは若干ドルの買戻しが見られていたドル円だったが、中国指標の発表後から急速に円買いに動き始め、夕刻には 118 円台まで円が続伸した。ロンドンからニューヨーク市場に移行する頃にはドル円の下落も止まり、119 円台半ば方向に戻す展開となったが、この時間帯、次に大相場を演じる通貨となったのは、ユーロ、英ポンド、豪ドルなどだった。昨日のドル円が高値から安値まで 1 円 70 銭程あったが、ユーロも 160 ポイント、英ポンドが 150 ポイント、豪ドルも 140 ポイント前後それぞれドルに対して売り込まれた。米連邦準備制度理事会（FRB）の高官が盛んに中国株の急落は懸念材料ではなく、米経済見通しへのリスクにならないと発言しているが、昨年夏以降に波乱含みとなった金融市場では、常に中国経済の先行き懸念の話題が付きまとっていた。米 ISM 製造業景況指数の予想外の悪化もあいまって、週末の米雇用統計まで弱い結果の発表とでもなれば、為替市場の先行きも非常に読み難い展開となりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。